



校長 坂本 晋

# みたけが原便り

## 第20回 卒業式 式辞

(3月13日(土) マリオス小ホール)

### 式辞

岩手山の頂きに若鷺が羽ばたき、陽射しにも春が感じられる弥生三月となりました。

本日、この良き日にあたり、保護者の皆さまのご臨席を仰ぎ、令和2年度盛岡中央高等学校附属中学校第1回卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びとするところでございます。これもひとえに、皆様からの温かいご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、心からお祝い申し上げます。これまでのご苦勞もいかにばかりかと拝察いたしますが、手塩にかけてこられたお子様の晴れ姿を目の当たりに、感慨もひとしおのことと存じます。

そして、ただいま卒業証書を受け取られた五十名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、三年間の精進のかいあって本校の全教育課程を終了し、新たな門出を迎えました。

三年前、新築の香りも高い学び舎の扉を開けた時から、皆さんは新時代の魁となる学校を自分たちの手で築くのだという「独立進取」の気概のもと学校生活に一杯取り組んでまいりました。学業はもちろん、生徒会やサークル活動、学校行事にと、皆さんの「研鑽努力」は随所に素晴らしい輝きを放ってくれました。総合的な探究岩手学、台湾研修旅行、文化フェスティバル、サイエンスオープンスクール、そして一週間前の卒業論文発表会など、皆さんが築いてくれた創造的な学びのスタイルは枚挙にいとまがありません。無から有へ。知ることから行動することへ。そこにはいつも、下級生をより良い方向に導こうという使命感と上級生の自覚が横溢しており、頼もしい限りでした。

さてしかし、皆さんの学校生活は新型コロナウイルスの流行を抜きには語れません。楽しみ

にしていたカナダ研修旅行ができなかったことを残念に感じた人もいると思います。

私たちは、穏やかな日常と安心、友人知己との気の置けないふれ合いなど多くのかけがえのないものを失うこととなりました。この禍はしかし、それが当たり前と思って疑うことのなかった日々の暮らしと生き方を問い直す契機ともなりました。

私たちは、この大きな試練と引き替えに、命の尊さ、人間同士の助け合いとつながりの大切さを学びました。皆さんにとっても、この間は今自分にできることは何かを考えながら、家族や友だちへの気遣いを絶えず行動で示そうとした一年間でした。それまでの安逸の殻が破れ新しい自分に脱皮できたと感じた人もいるはずで、いまだ困難な状況は続いています。相手を慮る気持ちと自分を厳しく律することでこの先も乗り越えていきましょう。ピンチをチャンスに変える、それが附中スピリットです。すぐれた資質を持つ中央附中生であるからこそ、常に向上心と思いやりを持って行動する。そういう人間として、これから始まる高校生活に臨んで欲しいと期待します。

さて、この新たな門出にあたり、皆さんに贈る言葉があります。それは、高浜虚子という人の、「春風や闘志抱きて丘に立つ」という俳句です。「春風や闘志抱きて丘に立つ」

はる風というと、暖かく色づいた優しい風を思わせますが、春風と読むとちょうど今頃のまだ冷たく透明で鋭い風を感じさせます。その風を真正面に受けながら、若者は「よしやるぞ」という熱い闘志を胸に秘めて丘に立ちます。目の前に広がるのは冬枯れたたたずまいを宿す荒野でしょうか、眼下に見えるのは未だ春浅い田園に囲まれた住み慣れた町並みでしょうか。しかし、一点遙か山並みの彼方、若者の目が見

校長通信「みたけが原便り」 令和3年3月15(月)

据えているのは可能性に充ちみちた己が未来の姿なのです。

今思春期にある皆さんは、もうしばらくは自分のことで精一杯という日々が続くかもしれません。しかし、あれこれ悩みながらも懸命に生きる中で、人はいつか自分のためだけではなく他の人のために生きる術を身につけていきます。たとえば友達や恋人、一緒に仕事をする仲間や家族、やがては年老いた父や母を、自分のことよりも優先して考えるようになります。それは、生きる事が一人で成り立つのではなく、そのことで誰かに喜ばれたり感謝されたりするすぐれて社会的な営みだからです。今皆さんは見えないところで多くの人に支えられています。いつか支える役割を皆さん自身が引き受けます。成長する、大人になるということは、そういうことなのです。

もしかしたら、皆さんの親御さんは、あなた方をもう少し子供のままだにしておきたいと願うかもしれません。しかし、我が家がいくら居心地良くてもいつまでもそこにとどまることはできません。子供とは親を乗り越え、自立して生きていく宿命にあるからです。

今はまだ、皆さんは経験も乏しく、普段は穏やかなるも時に峻烈な表情を突きつける現実社会の何たるかを知りません。その意味では小さな世界の住人です。「井の中の蛙」とは皆さんも知っている言葉ですが、そのあとに、実はこう続くのだという一説があります。曰く。「井の中の蛙、大海を知らず。されど空の青さを知る。」

自らの世界の狭さを自覚し、井戸の底から高い志に向かってひたむきに努力を重ねる者だけが、頭上遙かに見上げる空の青さ、言い換えれば世界の美しさと生きることの価値を知ることができるのです。

努力すれば必ず夢が叶うとは言い切れません。しかし、努力は自分を高め自分を信じる力をもたらします。努力する者にとって、人生は甘くはないからこそ、味わい深くあり続けるのです。

結びに、中央附中に学び、空の青さを見つめ続けた皆さんが、今日の春風に灯した闘志を胸に秘め、高校生活を果敢に切り拓いてゆくよう心から祈念して、式辞といたします。

令和3年3月13日  
盛岡中央高等学校附属中学校 校長 坂本 晋

